

令和５年度学校自己評価表

鳥取県立米子東高等学校定時制課程

学校ビジョン	未来を拓く人材の育成		今年度の重点目標	1 自己実現に向けた教育の充実 2 豊かな人間性の育成 3 社会人としての意識の高揚 4 働き方改革の推進
中長期目標	1 人間理解のできる生徒の育成 人間の強さや弱さ、尊厳を深く理解し、自分と異質のものの存在を認めながら、共に関わり共に生きる共生の精神を持つ生徒を育成する。	2 課題意識のある生徒の育成 知的好奇心、科学的探究心と課題解決能力を育て、自身や社会に常に意識を持って自主的・積極的に学習し、自らの成長と社会への貢献を志す生徒を育成する。		
	3 自己表現のできる生徒の育成 他人の意見に対しては率直に受け止め、自分の意見を論理的に明確に表明できるコミュニケーション能力を持った生徒を育成する。			

年 度 当 初					最 終 評 価	
評価項目	具体項目	現状	具体目標	目標達成のための方策	経過・達成状況・改善方策	評価
1 自己実現に向けた教育の充実	主体的な学びによる基礎学力の定着	○授業評価アンケート 「わかりやすい」 96.6% 「先生の熱意を感じる」 97.1% ○米東サポーター・特別支援教育支援員の配置により、落ち着いた学習環境を保っている。 ○授業でのICTの効果的な活用に努めた。 ○ルーブリックを活用した授業実践を行った。	○わかる授業を推進 授業評価アンケート 「わかりやすい」90%以上 「先生の熱意を感じる」90%以上 ○生徒の目標に応じた学習指導	○授業公開および授業評価アンケートを活用した授業改善 ○各教科でのルーブリックの活用とパフォーマンス評価の実施 ○ICTの効果的な活用・ICT活用研修会 ○米東サポーター・特別支援教育支援員の活用		
	特別支援教育の充実	○SCによる個人面談を実施し、生徒への適切な対応に繋げている。 ○生徒理解研修会、QUR研修会、夕礼・終礼等で、生徒の状況、対応について職員間で共有し、必要に応じてケース会議も行っている。 ○外部機関と連携し、生徒の進路選択・進路決定に向けて、サポートを行っている。 ○不登校傾向の生徒について、SCによるコンサルテーションを実施したほか、SSWや市の子育て支援課と連携し、支援に努めた。	○教育相談体制、特別な教育的支援を必要とする生徒への支援の充実 ○教職員の特別支援教育に対する意識の向上 ○特別支援教育支援員の有効活用 ○要支援の生徒の情報共有	○全職員による生徒情報の共有並びに支援 ○特別支援教育支援員、SC、SSW、米東サポーターとの連携 ○QUの有効利用 ○特別支援教育支援員の支援活動計画の作成 ○特別支援教育に関する研修を実施		
	進路指導の充実	○3年次生に対し、継続的にCAによる個人面談を実施した。 ○面接練習や個別指導等に全教職員が関わった。 ○就職・進学ともに進路決定できない生徒がいた。 ○就職セミナー、地元企業・学校見学、進路説明会を実施した。 ○2・3年次生進学希望者に業者テストを実施した。 ○保護者懇談では、進路選択・進路決定に向け早い時期からの意識づけに努めた。 ○進路だよりを発行し、保護者に進路情報を伝えた。	○就職内定率及び進学決定率100% ○就職指導、進学指導の充実 ○進路意識の醸成	○LHR、進路講演会、個人面接による就職・進学に対する心構えの徹底指導 ○就職セミナー、地元の企業・学校見学の実施 ○CAによる進路指導講話、進路面談の実施 ○保護者への進路情報の充実		
	キャリア教育の充実	○キャリア・パスポートを作成させ、講演会、様々な学習機会を捉え記録を残して活用した。 ○地元企業・学校見学を通して、生徒自身にキャリアデザインについて考えさせた。 ○生活時間調査の実施によって、進路意識を高め、生活習慣を見直すことができた。	○進路意識の早期啓発 ○キャリア意識の醸成	○キャリア・パスポートの活用 ○行事、講演会を通した生徒自身のキャリア意識の醸成 ○地域の問題について、考える機会をつくる		

2 豊かな人間性の育成	生徒会・部活動の活性化	○鳥取県定時制通信制総合体育大会・鳥取県生徒会連盟大会に向けて、各部活動顧問と連携し、円滑な部活動運営を行った。 ○生徒会執行部会では、生徒が主体的に行事の企画運営を行った。 ○生徒の活動を学校だよりや学校HPで伝えた。	○生徒会活動や部活動、学校行事への生徒の主体的な取組の推進	○生徒の主体的な活動の機会を増強 ○学校HPの更新回数を増やす ○生徒会活動の推進		
	興味・関心を喚起する体験的活動の実施	○コロナ禍においても感染症対策を講じ、アウトドア体験・地元の資源体験を実施した。 ○地元の資源体験は、新たに「松江散策」を実施した。	○地域に根ざした教育活動 ○体験的な活動による豊かな心の育成	○体験活動先との連携強化 ○新たな体験先の開拓 ○体験を通して、地域の魅力を伝える		
	人権感覚豊かな生徒の育成	○人権教育講演会を実施した。事後のLHRで生徒相互の理解が深まった。 ○人権LHRおよび授業において、話し合い活動を行った。	○人権LHRの充実 ○各領域での人権意識の育成 ○お互いが安心できる集団の形成	○人権LHRの実施 ○自他ともに尊重できる生徒の育成		
	社会参画できる生徒の育成	○高等学校課事業や定通教育充実事業を通して、社会に対する理解を深めている。 ○授業や講演会等において、マナーについての理解を深めている。	○マナーを守り居心地の良い集団の形成 ○地域を理解し、地域の力になろうとする意識の育成	○生徒が人間関係づくりを学ぶ ○新たな事業による体験的活動の充実		
3 社会人としての意識の高揚	規範意識の醸成	○多くの生徒が落ち着いた学校生活を送っている。 ○一部の生徒に規範意識の低さが見られるため、観察・指導を継続する必要がある。 ○職員間で生徒情報を交換、共有している。 ○挨拶をきちんとできる生徒がいる。	○落ち着いた教育環境の維持 ○問題行動発生件数3件以下 ○皆勤及び精勤10名	○挨拶の励行、生徒への日常の声かけの実施 ○規律ある学校生活の徹底 ○教職員間の情報交換の実施 ○保護者との連携		
	家庭との連絡の緊密化	○欠席や遅刻について、学校に連絡する習慣が身に付いており、無断欠席はほとんどなかった。 ○担任を中心に、こまめに家庭連絡を行った。 ○挨拶や言葉遣いに対して、意識の高い生徒がいる一方で、スマートフォンが手放せない生徒もいる。	○欠席の多い生徒に対する支援 ○保護者の学校理解を促進	○こまめな家庭連絡 ○特別支援部・保健部との連携 ○保護者面談の実施 ○学校HP等による学校の教育活動の発信		
	〔体〕育、〔食〕育の推進	○定時制夜間給食や「食」のアンケート、「食」の講演会において「食」に対する理解を深めている。 ○鳥取県定時制通信制総合体育大会、鳥取県生徒会連盟大会、生徒会企画定時制大運動会を実施した。	○生徒の健康に対する意識の向上 ○生徒の日常の生活習慣の改善	○「食」のアンケートの実施 ○生活時間調査の実施 ○定時制夜間給食の実施		
	よりよい学習環境の整備	○ゴミの分別に取り組んでいる。 ○清掃活動は主に7月・12月・2月に実施した。 ○学習室のゴミ箱を生徒自ら管理させ、ゴミは各自で持ち帰る指導を行った。 ○通常は生徒が当番制で、行事の日は教職員が一斉に使用教室の消毒を行った。	○校内環境の整備 ○HRの時間に生徒と教員で清掃活動	○ゴミの分別や減量化についての指導の実施 ○清掃活動の継続		
4 働き方改革の推進	業務の効率化	○コロナ禍にあったが、実施時期や実施内容を再検討してできる範囲で実施した。 ○主査と副査とが連携しながら分掌業務を行っている。 ○長期休業中はタ札・終礼を行わない期間とした他、リフレッ週を設定した。 ○教育目標の達成を目指し、全教職員が連携している。	○円滑な業務の遂行 ○時間外業務の軽減	○計画的な事業の実施 ○分掌内における業務分担の見直し ○分掌内のフォルダ、ファイルの整理		

評価基準 A：十分達成した B：概ね達成している C：取り組みはやや遅れている D：方策の見直しが必要